



二人とも、元々は違う仕事をしていたと聞いています。独立の経緯を教えてください——

**溝端** 大学卒業後、「自分が本来にしたいこと」を模索しながら、航空会社や旅行会社の勤務を経て、34歳の時に高齢者施設に転職。人生のターニングポイントになる「福祉」と出会いました。入居者からの相談を受ける度、介護だけではなく福祉の専門的な知識を学ぼうと思うようになり福祉大学に編入。そこで相談援助業務に必要な社会福祉士と精神保健福祉士の資格を取得した後、縁あって福祉町社会福祉協議会に勤めることになりました。地域活動の仕事の中で、当時空き家だった古民家の存在を知り、同じくして、地域活動を

輝く界限 ③

## 個人事業

### 挑戦を続ける女性たち。

組織に属し仕事する社会人が大半を占める現代。そんな中、自分の大志や夢のため、独立という一歩を踏み出した「ふくちのやどかふえ」オーナーの溝端桂子さんと福祉町出身の画家・Yorieさんに胸中取材しました。

「独立は、不安定で大変」というイメージがあります。新しい挑戦は怖くなかったですか——

**溝端** 私は元々、自分に自信が無いのと責任感が強い方なので、行動する前に考えて悩む性格なんです。ずっと雇われていた立場だったので不安でした。ありませんでした。もし時代が昭和の時代だったら、今のような挑戦はできなかったと思います。

**Yorie** 時代の流れはありますよね。今は昔よりずっと女性にとって働きやすい環境になっているし、柔軟な働き方を認めてくれる社会的な土壌もできていますしね。

**溝端** 本当にその通り。私が独立できたのは時代の流れが味方してくれたからだと思います。今は昔のような終身雇用や絶対的な安定がなくなり、転職が当たり前となりました。どんな形で

したいと願う学生たちとの交流を深めてゆく中で「できることは限られているけど、この古民家を活用して、彼らや地域の居場所『コミュニティの場をつくらう』」と思うようになり、築120年の空き家を購入することになりました。リフォームを経て2020年3月に完成。社協を退職し、民泊施設「ふくちのやどかふえ」(Yori-toko)として独立しました。

**Yorie** 高校卒業後、地元・福祉町を離れて短大に進学。卒業後は、古賀市内で保育士として働いていました。私も溝端さんと一緒に、務める中で「自分のやりたいことと違う」と感じるようになり、29歳の時に福岡市内の民間企業へと転職。その頃の日本は、今よりずっと男性社会で「独身・子なし」の私は、肩身の狭い思いをしながら務めていました。そんな時、命に関わる

あれ自ら考え、実行する行動力や企画力が求められていると思います。私の場合は個人事業として自由に地域の居場所づくりをしたほうがいいかなと思えましたし、得るものと失うものを分析して覚悟したら楽になりました。今はとても充実しています。もちろん、不安はありますけどね。**Yorie** 確かに個人事業って、常に自由だけど、常に不安で大変。表裏一体ですよ。始める事も、辞める事も簡単。けれど、継続が一番大変で忍耐が必要なんです。もちろんマイナスばかりではなく、良いこともたくさんありますよ。一歩踏み出せば、出会った人も、世界も二気に広がって、自分の成長を感じることができましたしね。今までの人生でいろんな困難がありましたけど、総合的に考えて私は挑戦してよかったなと思っています。

**一歩を踏み出したお二人。今後の抱負を教えてください——**

**溝端** 来てくださるお客さまが本音で話し合っ「コミュニティの場

大病を患い治療のため仕事も辞めざるを得なかった私。命すら危ういという状況に、「とりあえず何かを残したい」という気持ちに駆られていました。そんな時、以前から絵画で受賞経験があった私に、周囲の人が「あなたには絵があるじゃない」と言葉をかけてくれたんです。この一言がきっかけで、病気の克服後は作家として生きていくことを決めました。それから作家として東京と福岡を拠点に個展を80回以上も開催する程の月日が流れ、両親も他界。残された実家と山を守るため約40年ぶりに福祉町に帰郷。昨年10月にギャラリー「Gallie+」をオープンしました。

あることが「Yori-toko」の存在意義だと思っています。そして泊まりいただいたお客様が「福祉町に来てよかった」と思ってくれたことが本当に嬉しいんです。

**Yorie** へんに来るとい本音で話しゃうんですよね笑。**溝端** ありがとうございます！地域のかたやお客さまなど、来てくれる人を笑顔にできるよう、今後も美味しいスイーツと居場所を提供し続けていきたいです。**Yorie** 私は大病を経験したからこそ描ける、見る人の心に寄り添う作品を生み出し続け、「Gallie+」で皆さんに見てもらいたいと思っています。また先祖から受け継いだ家や山を整備し、次世代へと受け継いでいく活動も積極的に取り組んでいきたいです。

INFORMATION

Yorie's Gallery  
Gallie+  
(福祉町金田920-15)

昨年10月にオープンしたミニギャラリー。Yorieさんが手掛けたグラフィックアートや手描きの絵画を展示・販売。さらに、Yorieさん作・絵の絵本「虹の橋の約束」なども販売中。ギャラリーの、営業時間は公式HPやSNSを要確認。



EVENT GUIDE ▶ 「虹の橋の約束」原画展と読み聞かせライブ

会期 ▶ 5月12日(土)～24日(土) 10:00～18:00 ※火曜日休館  
場所 ▶ 福祉町図書館・歴史資料館「ふくちのち」  
読み聞かせライブ ▶ 5月17日(土) 【一部】13時開始／【二部】15時開始  
お問い合わせ・連絡先 ▶ 090-8620-9807



アーティスト  
Yorieさん  
短大卒業後、保育士として約10年間勤務。その後、企業・大学での事務を経て、画家へと転身。東京・福岡市での個展開催は80回にのぼる。昨年10月に「Gallie+」をオープン。

ふくちのやどかふえ「Yori-toko」  
オーナー 溝端 桂子さん  
大学卒業後、地元放送局で総務課勤務。航空会社での地上職、旅行会社での旅行手配などを経て福祉の門を叩く。福祉町社会福祉協議会を経て2020年Yori-tokoをオープン。

INFORMATION

ふくちのやどかふえ  
Yori-toko  
(福祉町金田920-15)

築120年の古民家をリフォームして令和2年に民泊としてオープン。カフェは季節のフルーツを使った特製スイーツが好評。「地域のよりとこ＝居場所」として多くのかたに愛されています。※ カフェは要予約となっています！



SHOP GUIDE

住所 ▶ 福祉町弁城2561 (駐車場有り)  
電話 ▶ 0947-75-8902  
カフェ営業 ▶ 第2・3・5・7・9曜日／13:00～16:30  
宿泊 ▶ 1日1組3名まで／1人13,500円(1泊朝食付)

